

# ASAP

あきる野 多摩川学園

# カンボジア校通信

\*NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)



老朽化で取り壊すタットム校校舎の前で

## CONTENTS

- 東北被災地の小学生へ文具を送りました…P1
- カンボジアから義援金が…P1
- 第13回視察訪問を終えて 理事長 長谷川 安年…P2
- ASAP 支援ツアーに参加して 上田 悠可…P3
- ワットタメイ小学校新校舎落成式…P4
- タットム、トロク小学校のようす…P5
- Mother to Mother ロックミシンを購入…P5
- 教育支援金について…P6
- ルムチェック村初！ドッチボール大会！…P7
- 今後の支援活動予定…P8
- 学校が欲しい!!村民の願い、コールタメイ村…P9
- カンボジアあれ これ…P10

2011. 5

Vol.7

東日本大震災の被害を受けられた皆様に、心よりお見舞い申し上げます

## 被災地の小学生に文具を送りました

震災の悲惨な状況を目にし、ASAPでも何かできることはないかという思いから、被災した現地の小学生にランドセルを届ける活動をしているNGO『時遊人』を通じて、ランドセルの中に入れる文具を届ける事にし、多摩川幼稚園の父兄に呼びかけました。

呼びかけから発送までの間たった3日間でしたが、ダンボール箱7箱分が集まりました。ASAPのボランティアにより仕分を行い、文具と共に、Mother to Motherの在庫分（体操着袋とうわばき袋）も一緒に梱包し、4月15日に発送しました。被災地の子ども達に少しでも笑顔が戻ることを願います。

被災地の復興はやっと始まったばかりです。これからもアンテナを張り巡らし、ささやかでも支援に協力していきたいと思います。



仕分けの様子



段ボール7箱になりました

## Mother to Motherのお母さん達から義援金が届きました

3月13日、カンボジア事務局から驚くような知らせが入りました。

事務局に、日本の凄まじい震災の様子を知ったMother to Motherのお母さん達から40ドルの義援金が届いたというのです。

5ドルの制服が買えない為子どもを学校中退させる村のお母さん達にとって、どんなに貴重なお金か知るだけに、胸が熱くなり、ASAPと村のお母さん達との信頼がこんなに培われていることを誇りに思いました。



## 第 13 回視察訪問を終えて

理事長 長谷川 安年

平成 23 年 2 月 10 日から 16 日にかけて第 13 回支援ツアーが行われました。

今回の訪問は支援校視察、義援金支給と共に、寄贈第 3 校目になるワットタメイ小学校校舎落成式出席が大きな目的でもありました。訪問及び ASAP の活動内容についての詳細をご報告させていただきます。

視察の都度多くの小学校や中学校を訪問してきましますが、見えたのは、カンボジアの政府は教育に多額の予算をつけているというもの、先生のお給料、学校の設備、校舎の補修、そういった教育現場にほとんどお金が回ってきていないという現実です。なぜなのか？本当の所は誰に聞いても分かりません。その結果、老朽化した校舎や絶対的に不足している教室の増設などは、NPO 団体や外国からの支援に頼らざるをえないのです。

実際、主要道路わきには「〇〇ロータリークラブ寄贈」や「〇〇NPO 寄贈」という文字の入った学校が建ち、観光地付近には「この井戸はフランスの観光者から」「このソーラはスイスの観光者から」と観光からの寄付で成り立っている学校もありました。しかし問題はそういった支援が継続されていないという点です。

寄贈後継続して支援を受けている学校に出会ったことがありません。壊れたままのマド、最貧困家庭の未就学問題、30～40%の生徒の中退問題等、自分達が食べていくだ

けで精一杯の村が抱えている問題は、校舎寄贈だけでは解決できません。

残念ながら ASAP の支援先は限られてはおりますが、定期的に訪問し問題解決に一步一步進んでいけているのは、まさしく ASAP の趣旨をご理解頂き支援してくださる皆様のおかげのほかありません。心からお礼申し上げます。

東日本大震災においては外国からのたくさんの支援が届き、世界が助け合うことのあるがたさを実感させられました。現在日本が大変な状態でありカンボジアどころではないという方もいらっしゃると思います。もちろん被災地の復興のために自分ができることをする、これは最優先であります。ASAP の支援を待っている子ども達や村がある限り支援を中断することなく続けていく、これも NPO としての使命と思います。引き続きのご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



ツアー参加の皆さんとトロック小学校の子ども達

## ASAP 寄贈第 3 校目 ワットタメイ小学校落成式



完成した 4 教室の校舎



寄贈記念プレートの前で

ASAP として第 3 校目に寄贈したワットタメイ小学校校舎が無事完成し、2月12日に落成式が行われました。「派手な落成式はせず、その費用を支援にまわしたい」と ASAP の意向を伝えてはいたのですが、シアン ブンレアン大臣夫妻も出席したかなり盛大は落成式が行われました。式の様子が地元の新聞や TV ニュースにもなりました。

東京でいえばかつての多摩ニュータウン、といった立地のコールタメイ小学校の子供の数の増加は大変なようです。式にも大勢の子ども達が出席していたのですが、式終了後子ども達に飴を配り始めた時には、奥から子ども達が土煙を上げて集まってきてしまい、配るのを中止したほどでした。

この地域では、学力を身に着ければプノンペンで仕事につくことができます。一生懸命に勉強して家族を支え、国を支えてほしいと願います。

尚、ASAP の理念は『継続した支援』ですが、ワットタメイ小学校は自分達で運営していく力があるため、教育支援金支給の必要はありません。建築したシン・ホンさんに運営を見守っていただき、私達も時折訪問して様子を伺うという形の支援をしていく予定です。



道の両側に並んでの出迎えの様子



式典の様子



押しかける子ども達！

## タットム、トロク小学校の様子

学校訪問中にマジックとセロテープを学校から借りようとしたのですが、どちらも使いきっていてありませんでした。日本では当たり前に使われているこんなものでさえない、教材不足の状態は変わりありません。その様な中ですが、ASAPの支援で購入した個人ファイルが教室にきれいに並べられており、こちらの求める資料がすぐに提出できる等、支援品をちゃんと管理し活用している事も確認できています。以前に比べかなり先生達も積極的になってきたという印象を受けました。



壁にかかるファイル

## 教材の購入…早朝給食の為にバッテリーを購入しました

各校に300\$分の教育教材購入と、早朝まだ暗い4時30分から始まる学校で行われている給食の準備時に、手元を明るくする為のバッテリーを購入しました。この給食は、世界食料機関（World Food Program）の支援によるもので、1日一回は栄養のあるものを子ども達に与えて健康を維持するとともに、就学率をあげる為の大切な支援活動です。調理担当は村のお母さんたちです。電気の元ががんばってもらいたいです。

## Mother to Mother 活動…ロックミシンをお母さん達と共同で購入!!

Mother to Mother のすばらしい出来栄と主旨にご賛同頂き、現在6園が販売協力して下さっています。仕事が増えお母さん達の収入も増えたため、何とお母さん達にも出資をしてもらい、足踏みのロックミシンを購入しました！

お母さん達自身も出資することで、全員がミシンを覚えることができ、ミシンを大事に扱い、また、ASAPの仕事以外にも使うことができます。大きな前進です！



## 教育支援金について…先生が大勢辞めてしまった？！

今回の訪問でも、先生達一人ひとりに月々30ドルの教育支援金を支給してきました。

『学校の先生不足解消及び離職防止の為』という成果が現れ、いったん退職した臨時教師が正規教師の資格をとって戻ってきてくれたことは前回のカンボジア通信でご報告しましたが、なんと今回の訪問に先立ち「先生の数が激減」という連絡が入りました。「まさか！いったい何がおきたのか」という大きな不安をかかえての訪問でした。その結果、教育庁の指導で契約教師は教えることができなくなり、正規教員がその分を補うことになったからと分かりました。半日勤務だった形態が1日勤務になった為だったのです。それに伴いお給料は100ドルに上がったそうです。コン現地事務局員の女子社員のお給料が月100ドルということなので、やっと町で働く人の水準に近づいたといえます。先生たちは「勤務時間が延び大変ですが、それに伴いお給料も増えたのでこのほうが良いです」と喜んでいました。



### ◆◆◆ 教育支援金、今後の支給方針について ◆◆◆

先生方のお給料が上がったことは大変喜ばしいことですが、この大きな前進に伴い、帰国後の3月に開かれた理事会で、教育支援金の今後の支給方針が検討されました。

その結果、30\$のうち、20\$は引き続き先生個人に支給し、10\$は『学校運営費用』として校長先生に用途をゆだねるという形に変え継続することにしました。

つまり支援金を校長先生に託し、教材や備品の補充や補修に責任を持って使ってもらおうということです。今までは「なぜ壊れた窓を修理しないのか」「なぜ教室に時計がないのか」と聞くと、常に「お金がない」という答えでしたが、そういった物に支援金を充ててもらいたいということです。（これからは「お金がない」という理由は通用しなくなるわけです）

お金を託して学校運営を管理してもらう、これは学校の自立に向けての大きな前進と考えます。お金を任せることができるのは、この5年間で先生達が見せた「成長」と、今まで築いてきた信頼関係があってこそその事です。この両校を支援し始めて5年。訪問も13回以上になりますが、やっとここまでできました！！次回訪問の8月に先生に伝えます。

## …今後の活動予定…

### タットム校旧校舎建て替えへGOサイン!!

タットム校には以前から立つ古い校舎があります。その校舎が老朽化して建て替え問題が浮上していました。ASAPは教育庁にリフォームをしたいと申し出ていたのですが、「建て替え」しか許可が下りない状態が続き2年、とうとう崩壊の危険の為に立ち入り禁止になってしまい、写真の様な葉の校舎で授業をすることになってしまいました。



韓国の宗教団体寄贈のこの校舎は窓もなく薄暗い状態です。この状態をこれ以上続けるわけにはいかないというのが訪問した理事達の共通した意見でした。

幸いワットタメイ小学校校舎建築費用の半額を、長谷川安年夫妻から寄付を受けた為予算にゆとりがあります。3月の理事会で新校舎寄贈が承認され、23年8月を完成めどに契約を交わし工事に着工しました。皆さんの支援金がまたこの様に村の子ども達の為に役立ちます。

### タットム校井戸建設に向けて

現地の学校では校庭のあちこちに壊れた井戸が放置されています。多い学校では3~4基あります。支援で井戸が掘られたものの、浅い井戸の為に砂がくずれて数年で水が出なくなったり、故障使えなくなった物がそのまま放置され、新たに井戸が掘られてきた結果です。

昨年、タットム校でもASAPが以前寄贈した井戸がつかなくなってしまいました。簡単に壊れないしっかりした井戸を作ろうという計画がスタートし、この井戸建築に向けて、あきる野市の「いずみの会」が費用の寄付を申し出て下さいました。タンクに水をためて水道機能を持たせ、トイレまでの水を流したい、蛇口を複数つけよう等、色々アイデアがわいてきました。今回の訪問でも幾つかの学校の井戸を視察しました。ある学校では、昨年12月に寄贈された真新しい井戸というのにタンクの中の水は濁って臭いにおいがしており、その水で子どもが手を洗っていました。**タンクに水をためた方が使い易いが、いかにタンク内を清潔に保つかが、大きな課題とわかりました。**日本の専門の方にも設計を相談し、新校舎完成時に合わせて完成できるように進めています。



こんな汚い水で子ども達は手を洗っていました

## 第13回支援ツアーに参加して

早稲田大学 上田 悠可

学生として何ができるのか現地に行って自分の目で見てみたいと参加を決めた、上田 悠可君の感想です。

カンボジアに行く前、カンボジアという国の僕のイメージは、発展途上国で水道や電気がなく、大変不便な国だと思っていました。先進国に支援をしてもらわないと、飢餓で苦しむ人々がいて、僕らにとって当たり前の幸せな毎日をおくることが困難な状況だと思っていたのです。しかし、実際にいってみると確かに水道や電気がない場所が多いですが、街に活気があり、人々は気さくで、独特のエネルギーを感じることができました。

最初に行った首都プノンペンでは、昼間はゆるーく仕事をしている人々も、夜になると街に出かけて行き、メコン川沿いで友達と語り合い、広場では深夜遅くまでダンスをしているという、時間に縛られない自由な生活を送っていました。旅行者の僕らに対しても、一緒に踊らないかなどと声をかけてくれて、整然とした先進国にはないあふれんばかりのエネルギーに僕は圧倒されました。

三日目以降から首都を離れ、僕らは ASAP の本来の目的である学校の視察に向かいました。

ASAP が寄贈した三つの学校では、子供達や先生、地域の方々の熱烈な歓迎をうけ、改めて ASAP の活動がどれほどカンボジアの人々の役にたち、感謝されているかを実感しました。そして、また ASAP がどうして学校をカンボジアに建てるのかということも、そういうカンボジアの人々の気持ちを感じ、理解できるようになりました。

この旅で僕の中で一番印象深かったのは、なんといっても子供達の笑顔です。

僕は今回、カンボジアの子供達とドッジボールをするという目的をもって行きました。カンボジアの子供達の遊びは基本的にあまりルールがなく(現地の子供達の中ではあるのかもしれませんが)、ただわいわいやっているだけでした。そこにルールを持つ遊びをもって行くことには、多少の不安や自分を果たして受け入れてくれるのかという気持ちがありました。しかし、実際に学校に行ってみると子供達はすぐに笑顔で僕を受け入れてくれて、言葉は通じないことがありましたが、一緒に行った大沼彩さんと板垣さやかさんの協力もあり、成功させることができました。

旅の最後に僕らはまだ校舎のない学校を視察してきましたのですが、現状に僕は愕然としました。村では高床式の家が主流なのですが、その下のちょっとしたスペースが学校となっているのです。子供達は数百人もいるのに、座席はなんと 10 席足らず。黒板はたったひとつしかありませんでした。子供達の無垢な笑顔を守るためにも、支援の必要性を強く感じました。日本でこれから自分にできることを考え、微々たることでも挑戦して行きたいと思っています。

今回、僕が貴重な体験できたのは、長谷川理事長、大沼陽子先生をはじめとする ASAP の皆さんのおかげでした。本当にありがとうございました。



## ルムチェック村初！ドッジボール大会！

—子ども達と大学生が交流—

参加した大学生3人が、子ども達とのドッジボールを計画しました。体育の授業自体がない環境なので、恐らく集団ルールのあるスポーツは初めてではないかとの予測をして準備を進めました。が…初日は線から出ないという基本が守れなく、結局ぐちゃぐちゃになりただのボール投げになってしまいました！！

リベンジと望んだ2日目。年齢の大きい子供を集めて念入りに説明をして腕にリボンをつけ試合開始。それでも線を出ないというルールはかなり難しかったようで、気づくと違う色のリボンの子供が混ざっていたりしましたが、かなりエキサイトして大成功となりました。

「いつか日本の学生と君達とでドッジボール大会を開こう」と約束をしてお別れをしました。果たしてドッジボールはカンボジアの学校で根付くのでしょうか。



**「カンボジアでドッジボール大会を！」参加者募集中。一緒に企画参加してみようという大学生募集中！**  
詳細は ASAP 事務大沼まで(090-4968-4298)

## 手品、手遊び、折り紙等で子ども達との交流を楽しみました



ツアー参加の方達が、それぞれ持参した手品、折り紙、手遊び等で子ども達との交流を楽しみました。



# 学校が欲しい!! 村民の願い、コールタメイ村



支援を待っている村があると聞き、シムリアップから車で1時間30分程のコールタメイ村を訪問しました。

コールタメイ村には学校がなく、写真の様に民家の床下を借りて授業をしていました。4つの机しかなく、ここで勉強するのは1~2年生のみです。それ以上の学年はここから7キロ離れた隣の村の学校に通っています。赤土の道7キロは子どもの足や自転車でもかなりあります。学校が欲しいと願う村の人たちは、お金を出し合って建築出来る土地どうにか用意したのですが、校舎建築まではどうやっても手が届かず支援を待っている状態でした。

隣の校舎は数年前に他団体より寄贈された物でしたが、寄贈以来一度も訪問がなく、継続した支援は全くないという事でした。ASAPからの支援を受けられるのであれば何年でも待ちますと、ASAPでの校舎建築を懇願しています。

学校自体がないコールタメイ村です。「学校を建て、運営が安定するまで見守り支援する」がモットーのASAPに一番求められている支援先ではないでしょうか。

以上を理事会で検討した結果、タットム校の新校舎建築に次ぐ支援先に決定しました。



軒下の教室。上は民家



村民がお金を出し合い学校の為に買った土地

**ワットタメイ村小学校建築費用 目標 200万円!!(年間予算に不足する金額です)**  
**既に60万円の寄付が集まっています。Mother to Motherの収益も繰りこみます**  
**学校を待っている子ども達に小さな支援の手を!**

## カンボジア JICA 事務局訪問

プノンペンにある JICA 事務局を訪問し、カンボジアの現状や教育システムなどについてお話を伺いました。頂いた教育に関する資料から感じたのは、資料の数字と実際に私達が村で見聞している状態との差です。資料では村部の識字率は74%とありますが、実施はMother to Motherに携わるお母さん達は全員字が読めませんし、学校の先生でさえ ASAP との契約書を完全に理解することができませんでした。反面、私達が感じている問題『就学したものの卒業するのは60%ほど』という数字は資料と同様で、この問題は国の課題になっているという事でした。

私達は小学校中退者の解消に向けてこれからも歩みます。



## 日本人医師開業のクリニック訪問

参加した薬学在学の大学生のため、カンボジアで開業している唯一の日本人医師クリニックを訪問しました。カンボジアは病院が少ない上治療費が大変高額な為、人々は病気になるとまず市販薬を飲みます。

しかし薬には模造品があまりにも多い為、本物がどういったものかも分からない状態だそうです。薬局では薬が雑然と積まれ、どう見ても薬剤師のような専門家ではない人が扱っています。先生は患者に責任をもって処方できる薬を手に入れる難しさを訴えられていました。日本企業がこれから沢山進出していくと思いますが、大きな課題となることでしょう。



KEN クリニック奥澤先生と

# カンボジア

# あれ これ



市場にはこんな模造バッテリーが沢山並んでいました。

「MASIONNAL」と「PANASOCA」！！

# 第14回支援ツアーのご案内

23年8月下旬第14回支援ツアーを開催します。詳細は未定ですが、費用14～16万円ほどの予定です。毎年この時期の訪問は、視察支援の他、トロク、タットム校の卒業式に出席しますが、今年はタットム校の新校舎落成式出席も予定しています。

世界遺産観光だけではなく、支援活動の一環を体験していただけるツアーでございます。詳細及び参加ご希望の方は、6月中に理事長長谷川（090-8941-7373）または事務局（090-4968-4198）までご連絡下さい。尚募集人数10名の予定です。お知り合いの方をお誘い上げひご参加下さい。

## 支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。

- \* 正会員…毎月5000円（年額60000円）
- \* 賛助会員…毎月1000円（年額12000円）
- \* その他支援金…随時金額を問わず受け付けております



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO法人アジアの子どもたちの就学を支援する会  
理事長 長谷川 安年（ハセガワ ヤストシ）』

**\*注 両口座名が異なりますのでご注意ください**

## あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP会報 Vol.7 2011.5

■発行 ※NPO法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会  
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地

TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内事務局)

FAX 042-550-2467

メールアドレス [asap@tamagawa-kids.jp](mailto:asap@tamagawa-kids.jp)

ホームページ <http://www.tamagawa-kids.jp/c-index.html>

■発行人 長谷川 安年